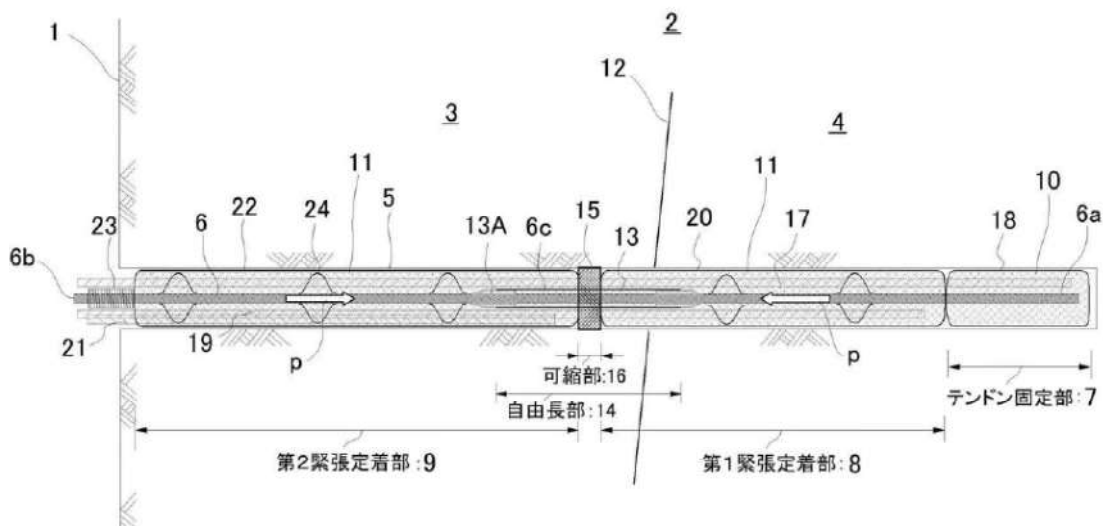


発明の名称：付着応力が均等なグラウンドアンカー工

最初に出願しました特許 7197098 も、付着応力が均等なグラウンドアンカー工と同じように機能します。しかし、一般的なグラウンドアンカー工に必須な「自由長部」が無いため、グラウンドアンカー工と呼ぶのに抵抗感も有ります。その点を改良し、前回の特許に自由長部を付け加えた等付着型アンカー工が、特許査定されました。

このアンカーでは、先にテンドン固定部（仮設）にセメントミルクを注入し、固結後（3～10 時間）を待ちます。テンドン固定部のセメントミルク固結後にテンドンを一定の荷重を保ちながら緊張し、荷重を維持した状態で、第 1・2 緊張定着部にセメントミルクを注入し固結後にジャッキ※1を外します。

テンドンには、自由長部があり、第 1・2 緊張定着部が僅かながら可縮部側に移動できる構造です。実際には、周囲の地盤と付着しているため、可縮部の縮む量はごく僅かです。



【利点】等付着型アンカーの主なメリットは下記の通りです。

- ① 定着部の逐次破壊が発生しません。引張型や圧縮型のアンカーでは、定着部の逐次破壊が指摘されています（地盤工学会）。
- ② 移動土塊が岩盤であれば受圧板を省略できます。または、土砂の斜面でも受圧板を 1m×1m 程度に小型化できます。このため、従来工法と同程度の建設コストになります。
- ③ 受圧板が小型～無いので、アンカー打設方向が法面に規制されません。また、地山など受圧板を設置し難い箇所にも建設できます。
- ④ 全区間がボンド状態なので、P C 鋼材のリラクゼーションは工法の機能低下要因にはなりません。

※1 理研機器株式会社の高性能自動制御ジャッキです。室内では、0.01MP の微小圧力での制御を行っています。